

## 研究機関名：東北大学

受付番号： 2014-1-819
研究課題名 先天性脊髄疾患の排尿障害管理における尿流動体測定検査の重要性に関する研究
研究期間 西暦 2015年3月（倫理委員会承認後）～2015年12月
対象材料 <input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 ） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名 ） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 診療録 ）
上記材料の採取期間 西暦 1990年1月～2015年2月
意義、目的 排尿障害（神経因性膀胱）を有する先天性疾患として、二分脊椎や脊髄動静脈瘻がある。神経因性膀胱患者の多くは腎機能温存のために、慎重な排尿管理が必要である。 尿流動体測定検査（Urodynamic study: UDS）は、膀胱内に整理食塩水を持続注入しながら、排尿禁圧、尿道括約筋電位をダイナミックに測定する検査方法であるが、検査手技が比較的煩雑であり手軽に外来で行える検査とはいいがたい。 そのため、初期評価として脊髄障害部位がはっきりしていれば、UDSは必須の検査ではないといった意見もある。しかしながら二分脊椎や脊髄動静脈瘻の神経因性膀胱は複雑な病態を呈することがあり、われわれは日常診療においてUDSを重要な検査の一つと位置づけ診療を行ってきた。 そこで、二分脊椎や脊髄動静脈瘻患者の膀胱機能の推移を、定期的なUDSが可能であったかに着目して後ろ向きに解析することにより、UDSが長期的な膀胱機能温存に果たす重要性和、手術治療前後の膀胱機能障害の改善への効果について解析するものである。
方法 東北大学泌尿器科外来に通院または通院歴がある、二分脊椎、脊髄動静脈瘻患者の診療録を後ろ向きに調査し、膀胱機能とUDS結果を解析する。 調査項目としては疾患名、排尿管理方法、排尿障害症状、身体的神経症状、膀胱機能、腎機能、UDSを含む整理検査・血液検査結果である。これらの匿名化したデータを事務局（東北大学泌尿器科）にて統計解析を行う 得られた情報は、ID、氏名、生年月日などの個人情報には含まれていない。したがって、データ取扱者には匿名化番号のみが付与され、個人識別情報は付されない。したがって、個人が特定される形で公表されることはなく、対象者が不利益を被ったり、人権が侵害されたりすることはない。
問い合わせ・苦情等の窓口 海法 康裕、川守田 直樹 東北大学大学院医学系研究科医科学専攻外科病態学講座泌尿器科学分野 〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1 TEL 022-717-7278 FAX 022-717-7283 E-mail : kaiho@uro.med.tohoku.ac.jp, kawamorita@uro.med.tohoku.ac.jp